

# 中央大学英字新聞学会 Hakumon Herald

---

## 第二章スタート



## 再結成から約1年半で発行部数日本一となった Hakumon Herald。次なる目標、「世界 195 ヶ国への展開」と「新メディアの創造」を目指す第二章がはじまる。

Hakumon Herald が創刊されたのは 1956 年。当時はまだ「英字新聞学会」は存在しておらず、「英語学会(ESS)」の有志たちによる発行であった。1963 年、47 号の発行に際し英語学会から分離。独立して、英字新聞学会となる。同年 6 月に発行した 50 号では、英国のノーベル賞受賞者バートランド・ラッセル卿、フィリップ・ノエルバーカー氏、ボイド・オーア卿らからの寄稿文の掲載。これらの実績から米シカゴ大学の学生新聞編集者から「白門ヘラルドは米国内の大学新聞のベストに匹敵する」と評された。

順調に活動していた英字新聞学会だったが、他の部会と同様 1968 年以降の学園紛争の影響を受け、会室がロックアウト。喫茶店での活動を余儀なくされる。さらに、その後の多摩キャンパスへの移転の影響を受け、活動は徐々に衰退。その後も継続的に新聞発行をしていたが、1997 年 11 月に 149 号をもって発行活動を中断。2001 年 10 月 23 日に学友会によって、廃部を公示された。

10 年以上廃部していた英字新聞学会だが、転機が訪れたのは 2012 年。OB 会がバックナンバーを収めた DVD 作成をきっかけに、学生会員 6 人での再結成が決まる。その年の 10 月、ホームページの作成と共にオンラインでの記事発行を果たすと、翌年 2013 年 4 月には通算 150 号としてペーパー版も発行再開。これら新聞の発行の他にも、規約立法や会計管理、SNS を駆使した活動が認められ、2013 年 12 月の中央委員会にて、未公認(準公認)部会として再結成後 1 年での学友会復帰が認められる。

2014 年 4 月の 152 号は 3,000 部の発行で、これは単発の発行部数としては学生英字新聞としては日本一である。また、2014 年度中に発行される総発行部数、オンラインページへのアクセス数も日本一(見込)であり、再結成から約 1 年半で一定の成果をあげたと言えるだろう。

しかしである。せっかく英字新聞を書いているのだから、国内の学生に読まれるだけでは物足りない。やはり、世界中で記事が読まれ、異国の人と意見を交わし合うのが理想であり、それを目指して活動していく、好奇心旺盛な、貪欲なサークルであるべきだ。そこで、これからの活動目標として「世界 195 ヶ国への展開」を定めた。

「世界 195 ヶ国への展開」は、おそらく簡単ではない。が、不可能でもない。サークル活動はビジネスではないので、一学生団体として、世界の発展のために議論を交わす仲間を見つけ、そのプラットフォームを作ればよい。提携を一つずつ増やし、積み重ねる事で、気が付いた時には世界中との議論の場が作り出されているはずだ。

世界展開と共に進めるべきは、「新メディアの創造」である。今日、ICT の急速な発達により、世界中のメディアが、新たなメディアの形を模索している。新聞、テレビは今までのスタイルでは生き残るのが困難となっており、その一方インターネットメディアも収益性や継続性に疑問が多いものばかりだ。おそらく、未来型のメディアに関する答えは、世界中の誰もまだ出せていないだろう。

それならば、この中央大学英字新聞学会から未来型メディアのモデルを提唱しても良いのではないだろうか。例えば、195 ヶ国の人々と議論の出来るメディア。あるいは、ローカル(中央大学)な情報を徹底して集積したメディア。アイデアは無限にあるはずである。もちろん一朝一夕で答えの出る問題ではない。夢物語と感じる者いるだろう。だが、せっかくの大学生活、一つくらい夢を描いてみるのも良いではないか。

英字新聞学会は、「世界 195 ヶ国への展開」と「新メディアの創造」を本気で目指す。また、本気で目指せる組織を作る。そんな第二章のトビラを共に開けよう！



## 年4度のペーパー版の発行と、年150本のオンライン記事発行が目標。「スーパーグローバル」と「スーパーローカル」の二面に対応出来る編集部を。

ここまで、約2年の活動でHakumon Heraldは、5回のペーパー版の発行と、約130本のオンライン記事を発行した。当初は部員数に限りがあったため、このペースで良かったのだが、現在のサークル規模からは、少なくとも「もっと出来る」というのが実感である。そこで、今後は、年4度のペーパー版の発行と、年150本のオンライン記事の発行を目標とする。

年4度のペーパー版の発行はそう難しくないだろう。2014年度も4度の発行を行なう予定で、現状でも十分到達している数字だからだ。むしろ、ペーパー版発行には、資金的な課題が大きく、そこを解消すれば年6度、10度...といった発行活動が出来るだろう。

一方、オンライン記事。ここまで約2年で130本の記事の執筆なので、年間平均は60~70本。部員数が50人近い事を考えると、十分な発行ペースとはいえない。年150本の目標達成のためには、単純計算2~3倍の稼働が必要となる。

目標実現に向けた最重要な改善点は、編集部の十分な組織化と制度化である。これまでの英字新聞学会の編集は、恥ずかしながら組織的に、制度化しているとは言い難く、個人のセンス(勘?)に頼りすぎている。そのため、編集そのものの機能性はもちろん、記事発行の管理も十分でなく、質、量ともに課題を抱えていた。

そこで、編集部には新たに編集企画、各コラムテーマの担当者、学内担当を配置することにした。編集企画は、3人で、これまで主に編集長、副編集長のみで行なっていた特集や取材先、インタビュー対象者の選定を補佐、協力する。各会員と編集幹部の意見を総合し、まとめる重要な立場である。また、各コラム(政治、経済、社会、スポーツ、文化、グルメ)に2人ずつ担当者を配置する。この担当者は、月に1本そのテーマの記事発行を行なうため、執筆者の選定や補佐を行なうほか、そのテーマに関連したゼミの開講なども行なう。学内担当は、学内ニュースを記事にするほか、学内の情報を集積することも実施する。(P5の組織図を参照)

グローバル化の進むこれからの時代、多くの売れ筋商品と同様に、メディアの編集にも、世界中どこにでも通用する「スーパーグローバル」と、ローカルに特化した「スーパーローカル」の要素が必要になるだろう。世界195ヶ国の人々に通用する記事発行を意識しつつ、中央大学に関するプロフェッショナルたる編集部を組織していきたい。

## Hakumon Herald の新たな未来を切り拓き、継続的な活動を支える。執筆以外の形で、サークルを作り、彩る執行部。

英字新聞学会における執行部は、販売や海外展開のようにサークルの新たな道を切り拓く役割と、法務や会計のように陰ながらサポートする役割の二面がある。この両面の機能によってより活動しやすく、快適なサークル環境が作り出され、継続的かつ発展的なサークル活動へと繋がっていく。

以下、執行部の役職を一部紹介する。



### 営業(第一渉外) / サークルの財政環境を整える執行部の柱

営業の主な仕事は、英字新聞や広告枠の販売を通して、活動に必要な資金を集めることである。一般企業と同様、一見花形職であるが、金銭が発生する以上はシビアな状況におかれる事も多く、難しい職でもある。取引先と当会、双方にメリットを出すことが求められるため、高いコミュニケーション能力とマーケティング能力が求められる。

### 海外展開(第二渉外) / 195ヶ国への道を切り拓く

海外展開は、その名の通り、Hakumon Herald の海外展開への道を切り拓くのが主な仕事である。海外展開には、大学レベル(中央大学の提携校など)での提携から、個人のネットワークを駆使しての展開、学外の国際機関と協力しての展開まで、多様な方法があり、そのために必要な情報を整理し、実行して行く必要がある。そのため、コミュニケーション能力と共に、交渉を進める英語力が求められる。



### 広報 / SNS を駆使して記事発行と活動を加速する

当会は、ペーパー版、オンライン版の他にも Twitter、Facebook、メールマガジンなど多様な媒体を持っている。これらを駆使することによって、発行された新聞、記事を PR するだけでなく、中央大学の他の部会の活動や国際関係のイベント情報を集約し、発信する事で、より英字新聞学会の活動を活性化するだけでなく、中央大学に貢献する。

### 会計・法務 / 運営環境を整える中央大学の精鋭部隊

どのような組織でも会計、法務は不可欠であり、メディアを運営する当会では特にその重要度が高く、様々な問題に直面した際に活躍する役職である。会計には 2013 年度の最年少公認会計士合格者を、法務には法職多摩研究室に所属する未来の弁護士や行政書士合格者を擁し、より発展的な活動をサポートする。



### 企画 / 会員のコミュニケーションをデザインする

英字新聞学会は、多様なフィールドを持つ個性豊かな会員が数多くいる。その中では、円滑なコミュニケーションは不可欠である。企画は、会内での飲み会やイベントを企画するだけでなく、普段足を運ぶ事が出来ないような施設への見学会(過去には JAXA や国際報道機関、Jリーグチームなど)や他大学との交流会を計画実施する。2014 年冬は、中央大学が幹事となって大学間交流会(東大、慶應、青学、国際基督教など)を実施する予定である。

# 多様な分野の学生が集まる人種のるつぼへ。一人一人がパーソナルメディアとなって、Hakumon Herald というメディアを築く。常に新しい事にチャレンジする文化を。

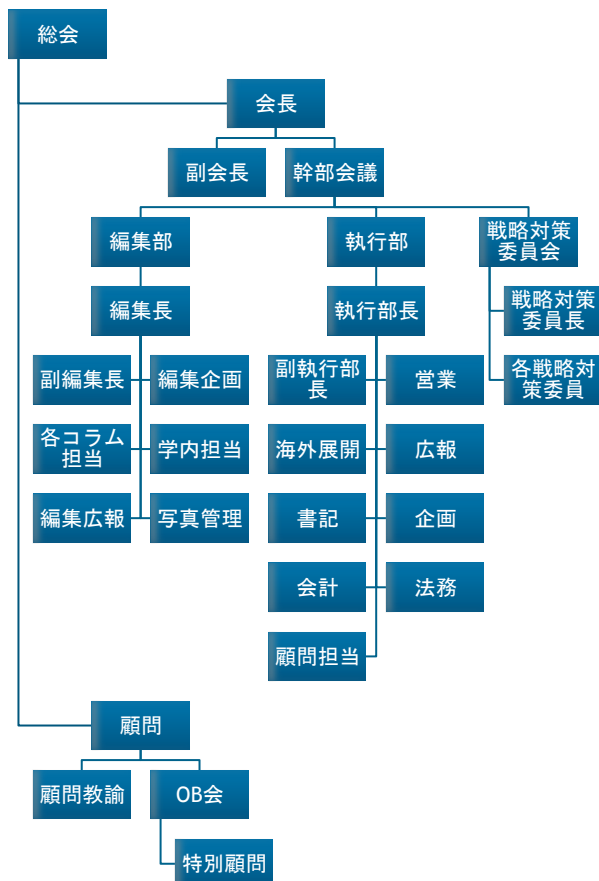
英字新聞学会には、多様な分野の学生が集まっている。TOEIC が 990 点の者、司法試験に取り組んでいる者、すでに公認会計士や行政書士の資格を有している者、ビジネスコンテストで優勝した者、自ら起業した者、大手メディアに内定している者などなど。このように多様な分野の学生が集まる人種のるつぼな組織であることが、組織内に、個人に、新しい考え方、発想をもたらし、アイデアが生まれるだろう。アイデアが生まれたら、それを実行に移すのが重要。学生のうちは、どれだけ失敗しても問題はない。チャレンジするのは当たり前で、チャレン



ジしなかったことを後悔する文化が根付くことが重要だ。

“メディア”は、思っているよりも色々なことが出来る。企画力さえあれば、大学の各機関、各部会とコラボレーションした事業が出来るはずだ。アイデアの発想力とそれを実現する実行力を身につける事は、将来どんな場所で、どんな仕事をしても活かされるはずである。英字新聞学会の活動を通して、会員が将来の目標を決め、そのために必要な力を一人一人が養うことが出来ることが、このサークルが存在する最も重要な価値だろう。

## 英字新聞学会 組織図



# The Next is Your Turn!

中央大学英字新聞学会 Hakumon Herald

Website : <http://www.hakumon-herald.com>

Mail : [hakumonherald2012@gmail.com](mailto:hakumonherald2012@gmail.com)

Twitter : @HakumonHerald

Facebook : HakumonHerald「中央大学英字新聞学会」

会長 磯貝健人(法3) Tel 090-3412-2266

興味のある方はお気軽にご連絡ください！